

北海道国際交流センター 日本語日本文化講座夏期セミナー30周年記念

OPI 日本導入 25 周年記念

The 10th International OPI シンポジウム —OPI 導入 25 周年を迎えて—

ご案内

主 催：（財）北海道国際交流センター、日本語プロフィシエンシー研究会、
日本語 OPI 研究会、九州 OPI 研究会、韓国 OPI 研究会

協 力：ACTFL

後 援：日本語教育学会、アルク、凡人社、函館日本語教育研究会

日 時：2015 年 7 月 31 日（金）～8 月 2 日（日）

会 場：函館国際ホテル（北海道函館市大手町 5-10 JR 函館駅徒歩 7 分）

テーマ：多様なつながりと OPI の可能性

参加費：6/25 まで 主催研究会会員 3000 円 非会員 4000 円

6/25 以降 主催研究会会員 4000 円 非会員 5000 円

申込先：<http://opi2015.proficiency.jp>

日本語教育の大きな目的のひとつは日本語を介して、ことばや文化の異なる人と人とをつなぐ能力を養うことだと言えます。現実の生活における口頭面の言語運用能力（プロフィシエンシー）を測る OPI も、究極的には、測定を通してそのような能力の促進を図るものであります。また、いろいろなところで実施されているホームステイプログラムの目的も、まさしく、直接的な異文化体験を通して、人と人がより深くつながることを目的にしています。今回のシンポジウムは、より広い、より深いつながりの達成をするために、日本語教育関係者は何をすべきか、何をすることができののかについて、原点に戻って考えてみたいと思います。

また、1991 年 3 月に初めて日本で OPI が行われてから四半世紀が経ちました。その節目の年に、10 回目の OPI 国際シンポジウムを実施することができたことは幸運であると言えます。ここで、OPI のさらなる進化と深化を考えるとともに、さまざまな課題にしっかりと向き合っていきたいと思います。大勢の皆さまのご参加をお待ちしております。

7月31日（金）

プレシンポジウム（H I F 関連）

講演 牧野成一（プリンストン大学名誉教授）

8月 1日 (土)

10:00~10:15 開会の辞 & 会長のことば

10:15~11:30 基調講演 1

「『ことば』という視点—母語教育と外国語教育をつなぐために—」

大津由紀雄（明海大学教授、慶應大学名誉教授）

11:40~12:55 基調講演2

「グローバル時代の言語教育—つながる教育、社会、そして、人—」

當作靖彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）

14:20~16:30 パネルディスカッション <日本語教育に求められる多様なつながり>

パネリスト：

「社会と日本語教育のつながり—贅沢は（ス）敵だ！…さて、真の贅沢とは—」

春原憲一郎（元海外産業人材育成協会元理事）

「コミュニケーションと日本語教育のつながり

—イイカゲン（低高高高高）はイイカゲン（高低低高高）—」

定延利之（神戸大学教授）

「OPIと日本語教育のつながり—人は糸、OPIの意図は人—」

嶋田和子（アクラス日本語教育研究所代表理事）

コメンテーター：

大津由紀雄（明海大学教授、慶應大学名誉教授）

當作靖彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）

16:50~18:00 OPI デモンストレーション

鎌田修（南山大学教授）

18:00~18:10 連絡事項、各研究会の紹介等

19:00~ 懇親会

8月2日 (日)

9:30~11:30 A: OPI ファミリアライゼーション

牧野成一（プリンストン大学名誉教授）

B: OPI リフレッシャーワークショップ

三浦謙一（フランクリン&マーシャル大学教授）

13:00~16:00 □頭発表&ポスター発表

□頭発表

第1会場

- 13:00~13:30 「プロフィシェンシーと感情・評価的意味を帯びる文」
堤良一（岡山大学） 鎌田修（南山大学）
楊帆（北海道教育大学）
- 13:35~14:05 「発話にみられる非語彙要素の再検討—タイ人の舌打ちに注目して—」
萩原孝恵（山梨県立大学）
池谷清美（チュラーロンコーン大学）
- 14:10~14:40 「スクリーンリーダーの「フォネティック読み」の検証-視覚に障害をもつ
日本語学習者のための「フォネティック読み」開発に向けて」
北川幸子（京都外国語大学）
- 14:55~15:25 「母語としての手話、バイリンガルとしてのろう者」
加藤三保子（豊橋技術科学大学）
- 15:30~16:00 「留学と地域のつながり —留学に求められる普遍性と不変性—」
榊原芳美（ミシガン大学・北海道国際交流センター）
奥野智子（ミシガン大学・北海道国際交流センター）
松原美佐子（インディアナ大学・北海道国際交流センター）

第2会場

- 13:00~13:30 「初級学習者への音声指導法の一考察 —多技能の比較から」
本橋美樹（関西外国語大学）
- 13:35~14:05 「初級日本語作文クラスにおけるコンコーダンスプログラム導入の試み—自
己訂正率における一考察—」
伊藤克洋（南山大学留学生別科）
- 14:10~14:40 「日本語会話授業における言語活動目標や授業活動とその評価基準の再考
—「can-do statements」とACTFL-OPI を利用して—」
羅曉勤（台湾銘傳大学）
- 14:55~15:25 「交流型授業における自己・他者評価シートの活用とフィードバック」
鄭惠先（北海道大学）
- 15:30~16:00 「フィールドワークを通じた言語文化的な学びの可視化と評価」
村田晶子（法政大学）

第3会場

- 13:00~13:30 「ロールプレイタスクと文化、及びOPIの課題—台湾・日本語世代へのOPI
で見えてきたことを現代につなげる」
高智子（コロンビア大学大学院）
- 13:35~14:05 「ロールプレイの成否に係る談話構成要素についての考察 ~「助言」のロ
ールプレイの観察を通して~」
高橋千代枝（京都外国語大学大学院）
- 14:10~14:40 「OPIにおける話題転換の方法—上級話者と中級話者に対するテスターの関
わり方に着目して—」
西部由佳（早稲田大学） 岩佐詩子（桜美林大学）

金庭久美子（立教大学） 萩原孝恵（山梨県立大学）

水上由美（中国帰国者支援・交流センター）

奥村圭子（山梨大学）

14：55～15：25 「グローバル時代の海外の日本語教師の専門性の一考察：日本人の海外研修をマレーシア人学生の新しい日本語学習の場として Redesign する実践活動より」

木村かおり（早稲田大学大学院）

15：30～16：00 「学習者との共同プロジェクト『日本語せんせい』作成におけるプロフィシェンシーの育成」

鈴木裕子（マドリッド・コンプルテンセ大学現代言語センター）

ポスター発表

13：00～14：00

①「OPI 的概念を取り入れた会話授業の試み」

陳姿菁（開南大学）

②「JOPT テスト実施支援システムについて」

李在鎬（筑波大学） 西川寛之（明海大学）

伊東祐郎（東京外国語大学） 坂本正（南山大学）

野口裕之（名古屋大学） 嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

野山広（国立国語研究所）由井紀久子（京都外国語大学）

六川雅彦（南山大学） 鎌田修（南山大学）

③「待遇表現を使ったスキットの創作活動」

山口美佳（Michigan State University）

④「日本語プレースメントテストにおける口頭能力測定：OPI 導入の意義」

ボイクマン聡子（東京大学）

⑤「日本での近所付き合いを円滑に行うためのソフトラーニング」

風間祐月（南山大学大学院）

⑥「留学生のインタビュー活動場面における”巧みな”聞き手としての参加一相互行為能力と言語形式の指導への気付き」

山本真理（早稲田大学）

14：00～15：00

⑦「JSL 児童生徒への教科学習支援を目的としたリライト試案一プロフィシェンシーの観点から和語動詞に着目して」

鎌田美千子（宇都宮大学）

⑧「モンゴルにおける初中等教育機関向け教科書の開発一プロフィシェンシー重視への取り組み」

片桐準二（モンゴル・日本人材開発センター）

⑨「インターンシップ派遣のための短期集中講義での目指すレベルと達成できるレベル：ACTFL の OPI を利用して」

安本恵美子（Stanford University）

⑩「在住外国人の社会参加に向けた日本語コミュニケーション評価システム～浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの活用～」

松葉優子（静岡大学） 松本三知代（早稲田大学大学院）

内山夕輝（公益財団法人 浜松国際交流協会）

⑪「ラオスの日本語学習者と OPI の出会い」

國頭あさひ（元ラオス国立大学）

⑫「オンライン上の接触場面が海外日本語学習者の動機付けに与えるインパクト」

斎藤郁恵（南山大学大学院）

15:00～16:00

⑬「タイ人学習者の談話マーカーの使用傾向について—他の母語の学習者との比較を通して—」

カノックワン・ラオハブラナキット・片桐

（タイ国チュラロンコン大学）

⑭「レポートにおける引用をいかに評価すべきか：アカデミック文書作成のプロフィシェンシーの視点から」

池田隆介（北九州市立大学）

⑮「タブレット端末の特性を生かした言語教育に関する考察」

立部文崇（徳山大学）

⑯「「日本語らしさ」に関わるフィラーと後続ポーズの音声的特長—OPI のロールプレイ部分の分析から—」

小島堅嗣（培材大学校日本語学科）

⑰「三者間会話に見られる3人目の会話参入のパターンについて」

占部匡美（福岡国際大学）

16:10～16:30 総括、閉会の辞